

はるかぜ

利用者数の減少が、はるかぜの存続に危機感をもたらしていましたが、今年度、2年ぶりに新規利用者が3名入りました。昨年度に3名卒業しましたが、利用者数としては昨年度と同数になりました。(新1年生が3名入り、高等部3年生が3名卒業しました。)

構成年齢がいきなり引き下がったことにより、今年度は新しい風が吹くことを期待し、楽しみしています。

○はるかぜの集団活動

1対1対応が必要な子どもが増えることになり、個々の支援が増えていくと考えられます。しかし、“いろいろなタイプの子どものいる”集団としての強みをどう出していくかが、今年度の課題になります。

制作・遊び、いろいろな場面で、子ども同士の関わりから生まれる相乗効果、子どもの力を引き出す工夫を考えていきたいです。

○制作活動

昨年同様に、雨の日などに個々で取り組める制作活動を継続していきます。子どもによって出来る内容が違いますが、いかに楽しく取り組めるか、集中する力を出す環境に配慮するなど検討していきたいです。

○スタッフのスキルアップ

年々、対応に苦慮する場面が出てきています。支援する私たちのスキルアップと意識向上・更新を図ることが求められています。法人の虐待防止研修はじめ、コロナが開けた昨年からは研修の案内も増えています。お互い声を掛け合い、勉強を続けていきたいと考えています。

はるかぜは、スタッフ同士の意見のやり取りが活発に行われています。この雰囲気や大事にしながら、私たちの関わりで、いかに子どもの力を引き出すか、社会性を身につけてもらうか、今後も大いに自由に言い合える職場としていきたいです。そのためにも、関わる私たち自身が楽しく生活が出来ていなければならないと考えています。私たちスタッフが自分自身の気持ちや生活を大切にして、子どもたちとの関わりを楽しめるようにしていきます。

また、各事業所の方々には、今年度もご協力を仰ぐことが多いかと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

(文責 鈴木直子)